



【徳之島】「予防が大切、いじも病気・事故」をテーマに、小児医療講演会が23日午後、徳之島町文化会館であった。鹿児島大学大学院医学総合研究科や県立北薩病院の小児科専門家らの講演と事例報告を基に、離島へき地における小児医療の現状と今後を考えた。常勤の小児科医確保には「企業誘致的な取り組みで声を上げる必要がある」との提言もあった。

小児医療の専門医が少ない離島・へき地の子どもたちが長期入院を要する病気にかかりた時、本人やその家族を支える事業などを進めている「いじも医療ネットワーク」（鹿児島市、河野嘉文理事長）と、徳之島で子育て支援などに取り組む「親子ネットワークがじゅ離島へき地における小児医療を考えた講演会・ディスカッショニン」（23日、徳之島町文化会館）

## 小児科医確保で提言

島で講演会

まるの家」（徳之島町、野中涼子理事長）の両NPO法人が主催。育儿中の母親など関係者が聴講した。

第一部では、鹿児島

原博幸医師は「小児の

不慮の事故とけがの対

応」で講演。乳幼児の

死亡原因のうち「不慮の事故」は1~4歳で

第2位、5~9歳では

第1位に浮上。浴槽での溺水防止も例に、「子どものまわりにいる者が事故の潜在危険を一つ一つ取り除く。安全教育は子どもと大人に働きかけ、年月齢別の事故防止」と強調した。

第二部は、

「いじも医

療ネットワークがじゅまるの家」の野中

理事長は「（常勤の

小児医の確保には人

のネットワークが大

きこと

その一步にしたい

と述べた。

約560人参加の大口予算もまつりなど地域一体の取り組み回数を接種するため、や、全国で2番目に実施したビック接種の金額が6%）なども紹介した。

ディスクッションで

は、「予防接種補助な

ど行政に理解を広げる

には我々が動き、子どもたちへの応援団・理

解者を少しでも増やす

べき」。専門医確保は

もたらし、なら誘致でき

るかという時代。「将

来」で働きたい」と

させるような企業誘致

と同じ」。最後に「が

じゅまるの家」の野中

理事長は「（常勤の

小児医の確保には人

のネットワークが大

きこと

その一步にしたい

と述べた。

大学院同総合研究科の西順一郎教授が演題「ワクチンで予防できること」で講演。ヒブ（インフルエンザ菌b型）や肺炎球菌など

関係で昨年県内で発生した小児細菌性髄膜炎4例のうち、3例が徳之島に存在した信じられない結果も報告。（①）

ビブ・肺炎球菌髄膜炎は乳幼児発症が多いため、ワクチンは生後2ヶ月から同時接種で開始（②）麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜワクチ

ンは2回接種の時代、科小児科学分野教授）